

リハビリ中止・再開判断 記録シート

土肥変法と現代の個別基準を混同しないための臨床記録用

注意：本紙は判断経過の記録用です。緊急症状では安全確保・応援要請を優先し、主治医指示・施設手順に従ってください。

患者ID		評価日		評価者	
実施場所		疾患・既往			
内服・酸素条件	内服／酸素デバイス・流量／室内気				
個別指示・施設基準	主治医指示、目標SpO2、運動上限、禁忌・中止条件など				

1 | 開始前条件をそろえる

確認項目	チェック	条件・メモ
体位・安静時間	☐ 体位固定 ☐ 安静確保	体位： 安静： 分
測定・治療条件	☐ BP ☐ HR/リズム ☐ SpO2	測定部位／酸素デバイス・流量／機器条件
症状・平常値	☐ 胸痛 ☐ 息切れ ☐ めまい ☐ 動悸 ☐ 冷汗 ☐ 嘔気	平常値との差／当日の発熱・処置・食事・透析など

2 | 実施内容と変化を記録する

実施内容・負荷	活動、姿勢、距離、時間、抵抗、速度など						
変化の出現時点	開始後 分／ 時 分	症状	☐ 胸痛 ☐ 呼吸困難 ☐ めまい ☐ 嘔気 ☐ 冷汗 ☐ 疲労 ☐ 意識変化 ☐ その他				
時点	収縮期BP	拡張期BP	HR	RR	SpO2	RPE	意識・症状／再測定時刻
実施前							
変化時							
再測定1							
再測定2							

3 | 対応区分と判断根拠を残す

☐ 開始見合わせ ☐ 即時中止 ☐ 一時中断 ☐ 条件付き再開 ☐ 再開せず報告・対応							
直接の判断根拠	症状、絶対値、ベースラインからの変化、回復の有無など						
参照した基準	☐ 土肥変法（3区分） ☐ 日本リハ医学会資料（4区分） ☐ 主治医指示 ☐ 疾患別基準 ☐ 施設プロトコル						

脈拍増加率に限る確認：運動前から30%を超えて増加した場合、2分安静後に『運動前値からの増加が10%以下』まで戻るか確認します。戻らなければ中止または極めて軽い運動を検討します。
注意：2分安静は、胸痛・意識変容・重度の呼吸困難・SpO2低下などへ一律に適用する再開条件ではありません。

4 | SBARで報告内容を整理する

S 状況	何をしているときに、何が起きたか
B 背景	既往・内服・実施前値・酸素条件・個別指示
A 評価	症状、BP・HR・RR・SpO2・意識の推移と回復
R 依頼	診察・追加評価・継続可否・次回条件の確認

5 | 本日の最終判断と次回条件

本日の最終判断	☐ 実施可 ☐ 条件付き実施 ☐ 中止 ☐ 診察・追加評価後に再検討
次回の再開条件	負荷上限、監視項目、酸素条件、実施場所、同席・報告条件など
報告・共有	報告先： 時刻： 時 分 指示・共有内容：

重要：土肥変法は一般に3区分、日本リハビリテーション医学会の旧安全管理資料は4区分です。本紙では、採用した判断根拠を分けて記録します。基準値に達していなくても危険な症状があれば中止・報告を優先してください。